

平成27年度第1回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第1回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見をいただきました。

1 日時及び場所

平成27年5月14日（木）
近畿中国森林管理局4階第3会議室

2 議題

- (1) 平成27年度重点取り組み事項について
- (2) 近畿中国局管内の需給動向について
- (3) 国有林材供給調整の必要性について
- (4) その他

3 議事概要

《検討結果》

住宅建設は4月に入って回復の兆しもみられるが、例年に比べると盛り上がりには欠ける。製材、合板等の需要は引き続き低調なまま推移しており、スギ、ヒノキの原木価格に大きな動きはないが、木質バイオマス発電施設が各地で稼働し始めており、チップ用木材の価格は上昇傾向にある。

国有林材の供給調整の必要性は認められないが、引き続き市場動向を注視していく必要がある。

〈主な情報、意見について〉

○国産材の供給及び価格の動向について

- ・和歌山県内の市場では4月に入り入荷量が増となったが、これから夏に向けて虫害の影響が出るので、減ってくると思われる。
- ・バイオマス発電用燃料の集荷が本格化し、特に小径木が仕入れ難になったことから、丸棒加工工場が工場閉鎖するなど影響が出ており、マテリアルユースの対策が必要なのではないか。
- ・奈良県の素材価格はスギが安値で安定し、ヒノキは若干の値下げ傾向。
- ・小径木は山元より需要先へ直送されている。

○原木需要分野（川下）の動向について

- ・岡山県ではプレカット工場の生産は好転してきたとも聞くが、住宅着工の減少は全国より大きく、製品価格は昨年4、5月に比べると低迷している。
- ・円高ユーロ安で、欧州からのプレカット用仕入れ価格は低下している。また、国産材丸太も価格が低下しているが、製品価格への転嫁が遅いため、プレカットは商売がしやすい。
- ・西日本の合板向け原木価格は、東側の安定した原木価格と差があり、大変厳しい。
- ・製材工場は、原木在庫を抱えており、これを消化しないため、手当ても進まない。
- ・大手、パワービルダーは需要が出てきていると言うが、これらの足元を支えている企業には、恩恵が及んでこない状況である。

○その他

- ・岡山から韓国へヒノキ製品（風呂、まな板、壁板など）を輸出している。特に女性に人気である。また、現地の設計士が建築材にヒノキを使う設計や、在来の軸組み工法の採用を勉強しており、（伸びるのは）これからと聞いている。